

旅行取扱状況の概観（平成17年7月分）

海外旅行の取り扱いでは、団体旅行は一般団体、学生団体が共に取り扱い低調で、前年実績を下回った。企画旅行はホリデイの取り扱いが鈍化し、その他の企画旅行も不振のため、6ヶ月ぶりに前年比マイナスとなった。個人旅行も航空券等の取り扱い低調と状況が悪化し前年実績に届かなかった。この結果、海外旅行合計は前年比95.8%と前年実績を下回り、3ヶ月連続の前年比マイナスと低調な取り扱いが続いている。

国内旅行の取り扱いでは、団体旅行は一般団体、学生団体が共に好調に推移し、前月に引き続き前年実績を上回った。企画旅行はメイトの好調により前年比131.5%と大幅に前年実績を上回っているが、これは計上基準の変更による異常値の影響が大きく、販売の実勢は前年比で107%程度の状況である。個人旅行の取り扱いでは、愛知万博入場券は依然として販売好調であったが、航空券、JR券、宿泊券の取り扱いが低迷したため前年実績を下回る結果に終わった。国内旅行合計は、団体旅行、企画旅行の好調により、前年比111.5%と前月よりも10ポイントアップしての前年比プラスとなった。

外国人旅行は、法人需要の受注好調、個人需要の取り込み堅調により、前年比132.9%と大きく前年実績を上回り、8ヶ月連続での前年比プラスと好調を継続している。

7月の総取扱額は、国内団体旅行、国内企画旅行の取り扱い好調により、前年比105.9%と3ヶ月ぶりの前年比プラスとなった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体では、法人需要自体が少ない中で、イベント・コンベンション関係の取扱いは好調に推移したが、その他団体は取扱が伸び悩み不振。学生団体も修学旅行、研修旅行等の取り扱いが低調で前年実績に達しなかった。方面別の取り扱いでは、近場の台湾、香港の近場が目立った程度であった。中国は前年の7割程度と依然低調が続いている。

(2) 企画旅行

ホリデイは伸びが鈍化し、前年比は103%となったが6ヶ月連続の前年比プラス。方面別取り扱いでは、台湾、アメリカが2桁増と好調で、ミクロネシア、ヨーロッパ、ハワイも前年を超えて堅調。中国は不振で、大きく落ち込んだままである。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体はイベント・コンベンション関係の取り扱い好調により前年実績を上回り、4ヶ月連続での前年比プラスと堅調に推移した。学生団体も修学旅行、校外学習、各種大会等の取り扱い増により、大きく前年実績を上回り好調であった。

(2) 企画旅行

メイトは、夏場の需要を取り込み沖縄方面が2桁増と好調であったが、近場商品、宿泊型商品が伸び悩んだ。

(以上)